

飯樋四区復興祭

故郷に笑顔広がる



飯樋四区復興祭実行委員会
会長 荒利喜さん（飯樋町）

2日間にわたり、遷宮大祭と復興祭を行うことができ、本当によかった。遠くから駆けつけてくださった方もあり、盛り上げていただいた皆さんに心からお礼を申し上げます。

力も得て開催したものです。「遠くからの人も、久しぶりの人もいっぱいいる」。地域の女性がうれしそうに境内のにぎわいを見つめていました。民俗芸能などの披露に合わせて、村外・県外からも賛助出演があり、ステージも華やぎました。焼きそばなどを振る舞う屋台も大忙し。心尽くしのもてなしで、会場は大いに盛り上がりました。

待ち焦がれたこの日を共に――「飯樋四区復興祭」は、遷宮大祭と同じ5月3日・4日の両日、境内に設けた特設会場で行われました。地域住民の中には、今も避難先で暮らす人が少なくありません。遷宮大祭に集う中で、連帯感を確かめ合おうと、飯樋4区（飯樋町、前田・八和木、大久保・外内、上飯樋）が実行委員会を立ち上げ、村内外の協



村内外の10団体がステージを盛り上げました。上から「福島大学吹奏楽団」「月桃の花歌舞団（沖縄県）」「ウィングポップス楽団（新地町）」「飯館フラクラブ」



紅白の餅をまいた「復興の餅投げ」



実行委員会が復興鍋や屋台グルメを提供



来場者に感謝を伝える荒会長



ユーモラスな踊りが笑いを誘います

飯館 春のにぎわい

Interviewインタビュー



千葉悦子さん
放送大学福島学習センター
所長・特任教授

元福島大学副学長。農村女性に焦点をあてた研究で長期にわたって村と関わり、震災後は、学生と共に、地域再生に向けた支援を続けています。

よくこれだけの人が集まりましたね。すごいな…というのが率直な感想です。県外を含むあちこちから参加する人もありました。福島大学の学生も神輿をかつぎに来ています。皆力を貸したいと来る一私もその1人です。そして、復興に力を尽くす有志の皆さんに呼応して、離れていてもこうして地域の人が集まる。人と人とのつながりを改めて感じる2日間でした。昔を思い出しますね。こうした動きが村全体、若い人にも広がっていくといいですね。

